

今日の説教のポイント <ルカによる福音書1章5～25節>

①イエス様のことから始めない不思議

ルカ福音書を読み出すといつも、「ルカはなぜイエス様ではなく、ザカリアとエリサベトのことから語り出すのか」と思います。読み続けると、それは二人の間に与えられた子ヨハネが、後にイエス様に洗礼を授け、救い主の到来を人々に告げる役割を果たすからだと知らされます。私たちには初めよく分からない、しかし、段々そのことの意味が分かって来る、あるいは、意味があることにつながっていることを知らされるという経験をしたことがあるはずです。「神様は意味のないことはなさない、それも必ず私たちにとって恵みになる（「あなたたちは、鳥よりもどれほど価値があることか」ルカ12:24）！」と生きて生きようになれることが信仰を持つ恵みの一つです。

②幸薄いと思われていた女に与えられた幸いから学ぶこと

不妊は、当時、神様からの幸薄く、災いの中にあることと見られていました。しかし、神の使者ヨハネはそのエリサベトに子として与えられたのです！ 聖書がそう告げているのです！ 信仰者はこの世の人が災い・不幸と思う状況を同じように受けとめてはなりません、また受けとめる必要もないのです。この世的には災いと思われることが大きな幸につながることもあります。またその逆の場合もあります。幸不幸に捕らわれず、むしろそのどちらにも神様を知るがゆえに泰然自若としてられる者となりたいたいものです。

③叱られたけれども、見捨てられなかったザカリアから学ぶこと。

神様からの大きな恵みを受けたザカリア。彼はエリザベト共に、「神の前に正しい人で、主の掟と定めを全て守り、非のうちどころがなかった」(6)とあります。しかし、その彼が天使の御告げを信頼し切れず「しるしが欲しい」(18)と願い、それによって彼は口を利けなくされてしまいます。罪に対する罰を受けたのでしょうか？ そうでしょう。しかし、これもまた②で語ったことに通じます。罪は裁かれます。しかし裁かれて終わりではありません。その後、ヨハネが与えられて神様を賛美したのです(1:64)。罪の罰は受けなければなりません。しかし、その後に恵みと喜びを用意して下さっている神様なのです！